テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14　備忘ログ(PATCH2.35)　蛮族ストーリー



エクストラ編　その1

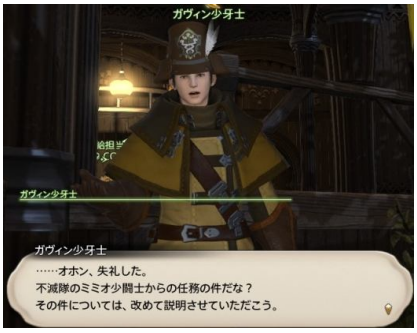
新たな蛮族事件　～　そして事件は荒野へ

©2010－2014 SQUARE ENIX CO.,LTD.All Rights Reserved. FINAL FANTASY XIV

新たな蛮族事件（不滅隊）

ミミオ少闘士 ： ◇◇◇殿。キミの活躍は、不滅隊で語り草となっているよ！　蛮族問題を討伐ではなく、友愛と協調により解決するなんて！
アマルジャ族のみならず、エオルゼアの主要蛮族である5種族と、信頼関係を築いたそうじゃないか。
「武」とは戈を止むと書く……。戦わずして平和を成す、これまさに「武」だね！　そんなキミに是非、お願いしたいことがあるんだ。
詳しくは、グリダニア「双蛇党：統合司令部」に務める、「ガヴィン少牙士」から話を聞いてほしい。よろしく頼んだよ！





ガヴィン少牙士 ： おお、◇◇◇殿か！？　双蛇党は今、貴公の話題で持ちきりなんだ。是非今度、蛮族たちとの数々の冒険譚を聞かせてくれ！
……オホン、失礼した。不滅隊のミミオ少闘士からの任務の件だな？　その件については、改めて説明させていただこう。

仮宿に現れた少女

ガヴィン少牙士 ： それでは、さっそく任務の説明をさせていただこう。先程、統合司令部に火急の報が入ってきたのだ。
報告者は、「シルフの仮宿」に滞在中の「ヴォイス」氏。
そう、貴公もよくご存知だろう。例のヘッポ……失敬、高名な博物学者だよ。
報告の文面を見るかぎり、何やらただならぬ事態の様子……。もしや、シルフ族に、新たな問題が起きているやもしれん。
この任務、シルフ族の信頼篤き貴公は、まさに適任！　各国のグランドカンパニーに連絡を取り、
貴公を探していたところだったのだ。
◇◇◇殿！　是非とも「シルフの仮宿」を再訪し、ヴォイス氏の話を聞いていただけないだろうか！

ヴォイス ： ううううう……お、落ち着け、落ち着くんだ。え～と……こ、この事例の対処法は……
名著「勇士ミスタル伝」の記述が参考になるはず……。
はっ！　あああっ、君は……！　◇◇◇さんじゃないですかっ！　もしかして、双蛇党から派遣されたのですか！？
ううう、よかった……冒険者さんがいれば百人力です！　どうか、非力なボクに力を貸してくださいっ！
実は「ゆりかご」が……「ゆりかご」が……ああっ！　ボクがまたまた目を離した隙に、仮宿の「ゆりかご」が……
くうう……ボクの馬鹿！　馬鹿馬鹿馬鹿馬鹿っ！





？？？？ ： 落ち着くでぶっち、ヘッポコどの。別にお前さんを責めたりはしていないでぶっち。
フリクシオ ： 冒険者どの、お前さんには、いつもいつもお世話になるでぶっち。まったく……この仮宿は問題続きでぶっち。
一難去ってまた一難なのでぶっち。
実は、この仮宿で大事に育てていた「シルフのゆりかご」が、なくなってしまったのでぶっち……。
しかも、ゴッソリと全員……ぶっちっち……。

ヴォイス ： 「シルフのゆりかご」は、生まれる前のシルフ族の繭。それが盗まれたということは、これは単なる盗難じゃありません！
これはもう、シルフ族の「誘拐」ですよ！

フリクシオ ： 幸い「御子ちゃま」は無事だったものの、仮宿の行く末に関わる大事件でぶっち……。
なにせ、未来を担う子たちが、失われてしまったのでぶっち！

ヴォイス ： ゆりかごを奪った相手は、きっと、シルフ領の悪い子シルフたちに違いありません！　あいつらめ……まったく懲りない連中です！
冒険者さん、お願いします！　「シルフ領」に赴き、彼らの動向を探ってください！
そして、大事な「シルフのゆりかご」を取り戻してくださいっ！

？？？？ ： そんなことしても……無駄……。
謎の少女 ： 残念だけど……ここに「シルフのゆりかご」はない……。だって、仮宿からゆりかごを盗んだのは、
悪い子シルフたちではないから……。
これは、そんな単純な事件じゃない……。……これは……序章……。エオルゼア全土を巻きこんだ……大事件の……。

シルビア ： 私？　……私の名は……　シ、シル……シルビア。
冒険者さん……アナタに出番はないわ……。「シルフのゆりかご」を奪った犯人は……私が追う……。

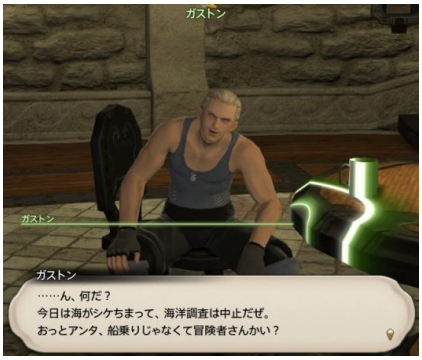


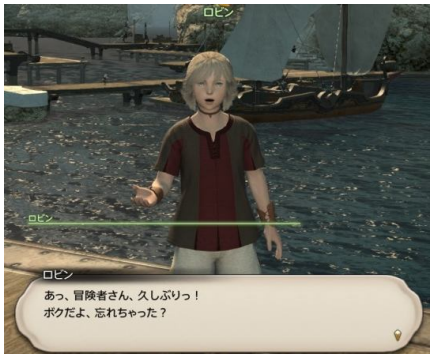
ヴォイス ： おおっ、冒険者さんっ！　どうでした！？　悪い子シルフを懲らしめて、「シルフのゆりかご」を取り返しましたかっ！？
……えっ？　犯人は悪い子シルフじゃない！？　謎の少女が現れて、そう言ったんですって？
ど、どういうことでしょう？　犯人が悪い子シルフではないとすると、いったい誰が、何のためにそんな犯行を？
ううううううう、わからない……。ボクが今まで読んできた本の中に、こんな事例は……ありませんっ……！

育成地に迫る魔手

ヴォイス ： 冒険者さん、どうやらこの事件は、シルフ領内だけの問題ではないかもしれません……。
「エオルゼア全土を巻きこんだ大事件の序章」……。冒険者さんが出会った、「シルビア」という少女の言葉も気になります。
どうか、お願いです！　世界をまたにかける冒険者である君に、この事件の足取りを追ってほしいのです。
「シルビア」という方は、次の事件の舞台を、ラノシアと言ったそうですね。「事件は繰り返す」と……。
ボクの学者仲間に、ラノシアで研究を行っている者がいます。事件の手かがりを掴むため、彼に会ってもらえますか？
彼は「ガストン」という名の海洋学者です。リムサ・ロミンサの「溺れた海豚亭」に滞在しています。
この手紙を渡せば、きっと力になってくれると思います！

ガストン ： ……ん、何だ？　今日は海がシケちまって、海洋調査は中止だぜ。おっとアンタ、船乗りじゃなくて冒険者さんかい？
……なんと！　ヴォイスの紹介で来たって？　あのヘッポ……おっと、少壮の博物学者は元気でやってるか？
相変わらず、周囲にいらぬ迷惑をかけてるんだろうな。
俺はガストン……海の生物やら魔物やらを研究しているんだ。こう見えても一応、学者なんだぜ。
……ところで、冒険者が俺に何の用だ？
ふむふむ……「大事件を未然に防ぐ手掛かりはないか」だと？　……なんだぁ？　質問の内容が漠然とし過ぎてないか？
ヴォイスの奴、相変わらず要領の悪い奴だぜ……。
そうさなぁ……あ、そうだ。俺は職業柄、港の船乗りたちと仲が良いんだが……
話によると、今朝、小舟を一艘借り切った奴がいたらしい。
船乗りが、それとなくそいつに行先を聞いたら、西ラノシアの「ハーフストーン」だって言うじゃねぇか！
「あそこはサハギン族の縄張りだからやめとけ、死ぬぞ！」って忠告したのに、そいつは「かまわん」の一点張りで、
ひと悶着あったらしい。
まぁ、俺は現場にいたわけじゃないから、あくまで伝聞だけどな。もし詳しく知りたかったら、
その場にいた俺の息子に話を聞いてみてくれ。
俺の息子は「ロビン」っていうガキだ。今は俺の研究助手として、船乗りたちと網倉あたりにいるはずだぜ。





ロビン ： あっ、冒険者さん、久しぶりっ！　ボクだよ、忘れちゃった？
海で船から落っこちて溺れてたところを、オサカナのオジサンに助けられた、ロビンだよ！
あのときの宝物、ちゃんとオジサンに届けてくれた？
そう、よかった！　……えっ？　今日はパパに頼まれて来たって？　今朝、小舟を借りた人の話を聞きたいの？
うん、その人なら半日前、この船着場から出発したよ。なんだか顔の半分に仮面をつけた、怖そうな雰囲気の人だったなぁ……。
あ、そうそう……その人が出発するとき、「ノォヴの育成地」っていう場所を聞かれたんだっけ。
確か、ハーフストーンにあるんだよね？
「ノォヴ」って……もしかして、オサカナのオジサンのこと？　いったい、何の用なのかなぁ……？
もしオジサンのとこに行くなら、これをお土産に持っていってよ！　じゃ～ん、さっき市場で買った「新鮮なラノシアオレンジ」！
オサカナのオジサン、きっと喜ぶよ！
ボク、将来はパパのような立派な海洋学者になるんだ！　そしたら、オサカナのオジサンに、深海に連れてってもらって、
新種の生物を「ダイハッケン」するんだ！

ノォヴ ： フスィーッ……◇◇◇ではないか！
元気でいるか？　ちゃんとメシは食べているか？　フスィーッ……少し背が伸びたんじゃないか？
……それで、今日は「ノォヴの育成地」に何の用だ？
フスィーッ……これは「らのしあおれんじ」ではないか！　以前、お前にもらってから、
子どもたちが皆、コイツに目がなくなってしまってな！
「フスィーッ！　おれんじっ！　おれんじ食いたい！」……とせがまれ、ほとほと困っていたのだ。
助かるぞ、何よりの土産だ！　フスィーッ！



セェウ ： フスィーッ！　お、親父、大変だ！

ノォヴ ： フスィーッ……セェウ、何度言えばわかる？　サハギン族の戦士は、いついかなるときも心に波を立てるな。
お前は、この育成地の未来を担う者なのだぞ？

セェウ ： す、すまねぇ……フスィーッ。でも、大変なんだ！　一番下の弟、ボォウが何者かに拐われちまった！

ノォヴ ： フスィーッ……何だと！？

セェウ ： ボォウを拐ったのは……恐らくヒトだ！　月影島で漁をしていたとき、舟がやってきて、無理矢理連れ込まれちまったんだ！

ノォヴ ： フスィーッ……何ということだ……。
◇◇◇！　来てすぐで申し訳ないが、緊急事態だ。月影島に赴いてもらえぬか！
フスィーッ……ヒトと争うことは本意ではないが……。家族が危険に晒されたとなれば、話は別！
私もすぐに後を追う……頼むぞ！
フスィーッ……ヒトが我らサハギン族を拐うとは。ヒトに水神信仰を伝えるため、その逆は良く聞く話だが……。
いったい……何のために……？

海獣使いのパァア ： フスィーッ……セェウから話は聞いている！　早くエルブストに乗って「月影島」に向かえ！

セェウ ： フスィーッ！　あそこだっ！
チクショウ……！　雑魚に手間取っている隙に、沖に出られちまった！
フスィーッ、マズいぞ……　弟は、まだエラでまともな呼吸ができねぇんだ。海に落とされでもしたら……溺れちまう！





ノォヴ ： フスィーッ！！

謎のミコッテ族 ： 待ちかねたぞ、蛮族！　さぁ！　俺を楽しませてくれ！

ボォウ ： フスィーッ！　うわぁっ！
お、親父ーっ！　た、た、助けてっ……！





謎のミコッテ族 ： はァッ！！

セェウ ： フスィーッ！　お、親父っ！！

謎のミコッテ族 ： どうした蛮族、この程度で隙を見せるとは口ほどにもない！　悔しければ追ってこい！
その滾る憎悪こそが、唯一無二たる「熱狂」たりえるのだ！

セェウ ： フスィーッ、なんてこった　親父、今助けにいくっ！！
◇◇◇、深追いはしなくていい！　お前は育成地に戻って、親父の手当てを手伝ってくれ！

セェウ ： フスィーッ……なんてこった……親父が負けちまった……。かつて最強のサハギン族の名を欲しいままにした……
「紅珊瑚の海魔」と呼ばれた親父が……。
あの男……なんて強さなんだ……！　フスィーッ……もしかして、俺たちは、
とんでもない敵に目をつけられちまったのかもしれねぇ……。

ノォヴ ： フスィーッ……ボォウを庇うためとはいえ、この私が、戦いにおいて遅れをとるとは……くっ……！
だ、大丈夫だ……これしきの傷、すぐに治る……。
それにしても、あの仮面の男……いったい何者なのだ？　何の目的があって、我が息子を拐った？
無念っ！　子ひとり守れずに、何が父か！　もう二度と……決して我が子を奪わせるものか……フスィーッ！

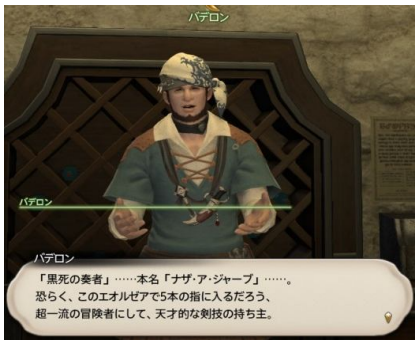
採掘地捕物帳

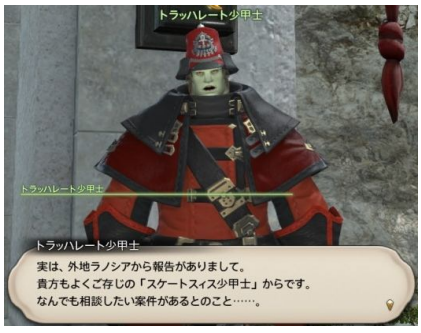
ノォヴ ： フスィーッ……◇◇◇。お前は我が家族の一員、娘も同然だ。だからこそ、身内として頼みたい。
息子、ボォウを卑劣な誘拐犯から助け出してもらえないか！　これ以上の被害を防ぐために、私はここを離れるわけにはいかん。
このとおりだ……頼む……フスィーッ。
実は、誘拐犯と干戈を交えた際、隙をついて舟に槍を突き立てた。「サメに食われても、喉元にヒレを立てろ」
……ただでは決して負けぬ、サハギン族の心意気だ。
おそらく船底には、小さからぬ穴があいただろう。浸水したとなれば、そう遠くまでは航行できまい……。
誘拐犯は補修のため、近くの港に寄ったはずだ。
フスィーッ……。西ラノシアにあるヒトの港……おそらく「エールポート」。そこにいけば、きっと誘拐犯の手掛かりがあるはず！
フスィーッ……頼んだぞ、◇◇◇。我が頼もしき娘よ！
フスィーッ……「エールポート」で、船底に傷跡、ないしは補修した跡のある舟を探せ。
そうすれば、ボォウを連れ去った男の足取りが掴めるだろう。

？？？？ ： 一足……遅かったようね……。
シルビア ： 「獣人誘拐犯」は、私が追う。アナタの出番はないと言ったはずよ……。
あいつは半刻前、ここに舟を乗り捨て、エールポートを去っていったわ……。残念ながら、その後の行先は不明……。
シルフ族に続いて、サハギン族までも……。ついに……回り出してしまったのね……。連鎖する悲劇の歯車が……。
ゆるせない……必ず暴いてみせる……。エオルゼアの5つの種族を狙った、獣人連続誘拐事件の……真相を……。
いったい、何のために！？

あの誘拐犯は、何者だ？
……どうやらアナタも見たようね。あの男……顔の半分を仮面で隠した、黒装束のミコッテ族の剣士を……。
あの男は「黒死の奏者」と呼ばれる凄腕の冒険者……。獣人を誘拐する……その理由と目的を探るため、
私は奴を追っている……。
あの男について詳しく知りたいなら、「溺れた海豚亭」のマスター、バデロンに聞いて。
……私には……もう時間がない……。次は……どの種族が標的に……される……？

バデロン ： よう、いらっしゃい。誰かと思えば、◇◇◇じゃねぇか！　……何？　俺に聞きたいことがあるって？
なっ……！？　お前さん……今「黒死の奏者」と言ったか！？
チッ、忌々しい名だぜ……。その名を聞くだけで、背筋に冷たいモンが走りやがる……。
「黒死の奏者」……本名「ナザ・ア・ジャーブ」……。恐らく、このエオルゼアで5本の指に入るだろう、
超一流の冒険者にして、天才的な剣技の持ち主。
しかし、その性情は冷酷非道にして残虐無比。……そのあまりの鬼畜の所業に、
冒険者ギルドから登録を抹消され、永久追放された……。
破壊工作、大量殺戮、要人暗殺……。奴は、どんなに汚い仕事でも請け負い、そして完璧に遂行する。
目ん玉が飛び出るくらい法外な報酬でな。
……お前さんは腕の立つ冒険者だ、それは認める。だが、悪いことは言わねぇ、「黒死の奏者」にだけは関わるなよ。
奴は奏でるように死を振りまきやがる、危険な存在だ……。
……そうそう、◇◇◇。実は俺からも、ちょうど、お前さんに用があったんだ。
ついさっき、この酒場に黒渦団の将校がやってきてな。どうやら必死になって、おまえさんを探していたようだ。
何か、緊急の用件があったのかもしれん。
将校の名は「トラッハレート少甲士」と言ったか。急いでいるようだったから、「黒渦団：軍令部」に寄って、
話を聞いてやってくれねぇか？





トラッハレート少甲士 ： おお、冒険者さん！　探しましたよ！　実は、折り入って頼みたいことがありまして……　何度も申し訳ありません。
実は、外地ラノシアから報告がありまして。貴方もよくご存じの「スケートスィス少甲士」からです。
なんでも相談したい案件があるとのこと……。
きっと、コボルド族の間で、また何か問題が起きたのでしょう。「第789洞穴団の採掘地」に赴き、彼女の話を聞いてください！
スケートスィスの奴、またいらぬ事に首をつっこんで、問題を大きくしているでしょうか？　……まったく、頭が痛いですよ。

スケートスィス少甲士 ： あっ、◇◇◇さん、おつかれさまです！　その後、お変わりないですかー！？
アタシはこのとおり、今日も元気にコイツらをしばき倒してます！
憎きゾ・ガの奴は失脚したけど、復権のために、あくせく働いてるみたい。だから、コイツらを鍛えて対抗させなくちゃ……。
……と、思ってたんだけど、ところがどっこい！　それよりも、重大な問題が起きちゃったんです！
ううう、一難去ってまた一難！
実は、鉱山に棲むコボルド族が、行方不明になったらしいんです。うむむむ……コボルド族の誘拐事件？　犯人は……。

ルガディン族？

よぉし、わかった！　そうそう、アタシみたいなルガディン族が……
ぐっへっへー、悪いコボルド族はいねーかー……って、オイ！

獣人連続誘拐犯！

って……え？　獣人連続誘拐犯！？　……もしかして、◇◇◇さんも、思い当たる節があるんですか！？
だったら、◇◇◇さん！　お手数ですが、事件の現地調査をお願いできますか？
誘拐されたのは「第175洞穴団」のコボルド族で、「コボルド軍試堀地」の視察中だったようです。
それなりに友好的な連中なので、きっと話を聞けるはず！
むむむ……エオルゼア全土を巻き込んだ、蛮族の連続誘拐事件かぁ……。
なんだか壮大な展開……不謹慎だけどワクワクしちゃうわね！





175オーダー・クォーリーマン ： た　助けてー！　助けてーよ！　アイーツ　いきなーり　やってきーて！
ビ・ビーが！　仲間のビ・ビーが　拐われたーよ！

175オーダー・アルケミスト ： イタタタタ……イターイ……イターイよ……！　ボクーの攻撃も　ボムの爆発も　まるで歯が立たなーい……。
アイーツ　バケモノだーよ！

175オーダー・プリースト ： 仲間の「アルケミスト175 ビ・ビ」が　連れていかれたーよ！　アイーツ　南の方に逃げていったーよ！
あそーこは　行き止まりなのーに……どういうつもりだーよ！？
ビ・ビを助けるためーに　さっき　ヒトの女の子が　誘拐犯を追っていったーよ！
いまごーろ　犯人を追いつめてるーよ！





シルビア ： ……くっ……うううううっ……！
ア……アナタは……。さ、触らないで……！　自分で……立てる……。
くっ　くやしい……！　次の標的はコボルド族だって……わかってたのに……　奴の凶行を阻止することが……できなかった……。
「黒死の奏者」……ナザ・ア・ジャーブ……なんて強さなの……。私ひとりじゃ……まるで歯が立たない……。
ああっ、もう……駄目……。チカラが失われてしまう……このままじゃ……私……　早く……戻らなくては……。

ピックマン789 ギ・グ ： ぼ　ぼ　冒険者さーん！　ど　どうなってんーの！？　何がおきてるーの！？

シルビア ： う……ううう……。

ピックマン789 ギ・グ ： ど　どうなってんーの！？　スケートスィスさーん　このヒトーは　どちらさーま！？

スケートスィス少甲士 ： 知らない！　でも採掘地の前に倒れてたの！　しっかりして！　大丈夫！？　すぐに傷の手当てをするから……！





シルビア ： へ、平気……ど、どうってことない……。それより……拐われたコボルド族の足取りを……。
早く……アイツの後を追うの……！
ナザ・ア・ジャープは、闇社会に生きる冒険者。だから一連の獣人連続誘拐事件は、奴が首謀者じゃない……
奴は雇われただけ……依頼された仕事をしているに過ぎない……。
事件の裏には、法外な報酬で奴を雇った黒幕がいる……　そいつを突きとめれば……
この事件の……真相を知ることができる……。

スケートスィス少甲士 ： 無理しちゃ駄目だってば！　しゃべらないでっ！

シルビア ： 残る獣人……奴らの標的は……　イクサル族とアマルジャ族……。お、お願い……！　奴らの暴走を……止め……て……。
……。

ピックマン789 ギ・グ ： あ　あわわわ……死んーだ！　死んじゃったーよ！　ご愁傷さーま……。

スケートスィス少甲士 ： コラっ！　勝手に殺すなっ！　気を失っただけよ！
◇◇◇さん、ここで待っててください。この子をキャンプ・オーバールックに連れて行ってきます。
さすがにここは、傷の治療をするには不潔すぎるから……。

ピックマン789 ギ・グ ： ふ　フケーツ？　そーう？　ボクたーち　ちゃんと半年に一度は　水浴びしてるーよ！

スケートスィス少甲士 ： 安心してください。あの子……シルビアさんはもう大丈夫。キャンプ・オーバールックで、しかるべき処置をしました。

ピックマン789 ギ・グ ： それにしてーも……ふぐっ　うえっ……。ビ・ビが拐われーた！　タイヘーン　どうしよーう！
ボク　お金ないーよ！　身代金なんて払えないーよ！

スケートスィス少甲士 ： ビ・ビちゃん……。なんかあの子、いつもそういう役回りよねぇ……。
……と、呆れている場合じゃないわ！　◇◇◇さん、今までの情報を整理して、今後の対策を練りましょう！

実験場に躍る船影

ピックマン789 ギ・グ ： ビ・ビが拐われたーの！　タイヘーン　どうしよーう！？　冒険者さーん！　とっておきーの　黄金ミミズをあげるかーら
お願ーい　助けてーよ！

スケートスィス少甲士 ： ◇◇◇さん。ビ・ビちゃんを連れ去った犯人……　獣人連続誘拐犯の逃走経路を、もう一度検証してみましょう。
獣人連続誘拐犯の足取りが途絶え、シルビアさんが凶刃に倒れた場所……　あそこは、断崖絶壁で逃げ場のない袋小路です。
でも、あそこから逃走できる方法が、ひとつだけあるわ。犯人はきっと、特別な移動手段を使ったのよ！
◇◇◇さん、もうおわかりですよね！？
ルガディン族だから？
そうそう、ルガディン族は、実は翼が生えて、空をパタパターって飛べちゃうのだっ……って、オイ！
いい加減、しつこいっちゅーの！
空路を使った！

飛空艇ですよ、飛空艇！　犯人は飛空艇を使ったんです！
そうとわかれば、キャンプ・オーバールックの「ブルーエイディン少甲佐」に、
周辺に不審な飛空艇を見なかったか、話を聞いてみましょう！
それに、治療中のシルビアさんからも、何か情報を得ることができるかもしれません。話を聞いてみてください！
個人で飛空艇を持つなんて……。犯人たちは、よほどの財力を持った大規模なグループ？
むむむ……陰謀の匂いがするわ……。

ピックマン789 ギ・グ ： 冒険者さーん　オネガーイ！　ビ・ビを助けてほしーよ！　ビ・ビの身に何かあったらと思うーと
不安で仕事も手につかないーよ！

ブルーエイディン少甲佐 ： おお、こりゃまた、珍しい顔だなぁ！　またアレか？　スケートスィスの奴の使いっ走りか？
あいつも人使いが荒いよなぁ。
ついさっきも、いきなりやってきたと思ったら、急患だっつって、死にかけの怪我人を押し付けてきやがった。
まったく、ここは病院じゃねぇっての。
……ん？　その怪我人なら、天幕の中で安静にしてるぜ。「お願い、決して中を覗かないで」……なんて言うもんだから、
放っておいてるがな。
それで、お前の用件ってのは何だ？　ほぅ……怪しげな飛空艇だと？
……もう、その話を聞きつけたのか、耳が早いぜ。
確かに、見張りに立っていた当直の部下が、近くを航行する船籍不明の飛空艇の船影を目撃している。
飛空艇は東に向かったらしい。メルトール海峡を越えりゃ、その先はアルデナード小大陸だ。はてさて、目的地はどこだろうな？
スケートスィスがつれてきた怪我人……　アイツ、いったい何者なんだ？
なんだか服装も変だし……不思議な雰囲気のお嬢ちゃんだな。



シルピア ： ふ……ふ……っ……。だ、誰……！？　……お、お願い……入ってこないで……。
アナタは……◇◇◇ね……？　……さっきは、無様な姿を見せてしまった。大丈夫、傷はすぐに治る。
◇◇◇、聞いて……。今まで、アナタの活躍を見ていて……確信した。
すべての蛮族たち……いえ、獣人たちにとって、アナタはかけがえのない存在だということ……。
アナタと獣人の間には、固い信頼の絆が結ばれている……。
もしかしたら……私たちが、ずっと探していたのは、アナタのような存在なのかもしれない……。
……お願い。私に代わって、獣人連続誘拐犯……「黒死の奏者」を追って。そして、奴の凶行を阻止して……！
次の標的は……恐らく「イクサル族」。飛空艇は、黒衣森のイクサル軍伐採所に向かったはず……。
エカトル実験場の「セズル・トトロック」に協力を仰ぐの。
……わかってる。素性もわからぬ女の頼みなんて、信用できない……。
頼むなら、まずは正体を明かせ……そう言いたいのでしょう？
ごめんなさい……理由があって、今は言えない……。でもお願い、信じて……。卑劣な誘拐犯を憎む気持ち、それだけは真実……。
きっと、いつか全ての真実を……話す。約束する……。だから、お願い……◇◇◇。

セズル・トトロック ： オウオウオウッゥ！？　誰かと思ったらッァ！　姐ちゃんじゃねぇかッァ！　元気してっかッァー！？

タタラム ： ◇◇◇さん！　よく来てくれました！
僕たちは相変わらず、飛空艇の開発を続けています。「デズル・クワラン号」にも、より改良を加え、
前よりもちょっとだけ、高度記録を更新しましたよ！

エカトル空力団団員 ： お、親方ッァ！　大変だッァ！　一大事だッァ！

セズル・トトロック ： なんだッァ！？　どうしたッァ？　騒がしいぞッォ！？

エカトル空力団団員 ： さっき、近くの空域でッェ、伐採所の装甲気球と、ヒトの乗った飛空艇がッァ、派手な空戦をおっ始めやがったッァー！

タタラム ： なんですって！？　それで、ど、どうなったんですか！？



エカトル空力団団員 ： 両者相討ち、痛み分けってヤツよッォ！　気球は伐採所に不時着ッゥ！　飛空艇も墜落は免れたがッァ、
黒煙を吹いて、逃げ去っちまったッァ！
どうやら先に仕掛けたのは、飛空艇のほうらしいぜッェ！　ヤツら、伐採所で何か悪さをしたみてぇだッァ。
それで怒った伐採所のヤツらに、追撃されてたんだッァ！

タタラム ： 人の飛空艇が、イクサル軍伐採所に強襲を？　飛空艇を使ったとなると、神勇隊の攻撃という訳でもない……。
いったい誰が？
イクサル族を誘拐したんだ！

自分の追う飛空艇に間違いない！
ええっ！？　◇◇◇さん、謎の飛空艇に心当たりがあるんですか！？　……なんですって？　「獣人連続誘拐事件」！？

セズル・トトロック ： なにッィ！？　誘拐だとッォ！？　なんでまた、ヒトのヤローがオレたちを
とっ捕まえたりしやがるんだッァー？　コンチクショッォー！

タタラム ： とにかく、飛び去った飛空艇の手掛かりを探しましょう！　交戦した地点に、何かしらの証拠が残っているはず！
◇◇◇さん、お願いできますか？

エカトル空力団団員 ： 確か、場所はッァ……　「ハーストミル」の周辺空域だぜッェ！

セズル・トトロック ： 野郎ッォ！　頭の上でドンパチしやがってッェ！　大事な「デズル・クワラン号」に何かあったら、タダじゃ済まねぇぞッォー！

タタラム ： 謎の飛空艇……？　空戦時に剥落した装甲材のひとつでもあれば、型式から所有者を割り出すことも不可能ではありません！

タタラム ： ◇◇◇さん、どうでしたか？　現地に何か手掛かりになるものは残ってましたか？
……これは、確かに飛空艇の一部！　どうやら、剥離した外殻の破片のようですね。
むむ、ふむふむ……。
この特徴的な曲線を描くフォルムは……ズバリ！　ガーロンド・アイアンワークス社製、69年式後期型！
……生産艇数は、わずかに4隻のみ！
ふふふ、飛空艇のことなら任せてください！　僕はこれでも「ハイウィンド飛空社」の小倅。
エオルゼアの飛空艇の情報はすべて、この頭に詰まってます！
とにかく型式が絞り込めればこっちのものです。「ハイウィンド飛空社」の資料に照らし合わせれば、
現在の所有者を絞り込むのは容易でしょう。
なるほど、◇◇◇さんは、「獣人連続誘拐事件」を探っていたのですね。その犯人を、追い込めそうですよ！

そして事件は荒野へ

タタラム ： 「獣人連続誘拐事件」の犯人は、飛空艇を操っていた……。
飛空艇を購入して運用するには、それ相応の資金が必要となります。つまり事件の黒幕は、かなりの財力を持つ人物……。
所有者の割り出しは、僕に任せてください。「ハイウィンド飛空社」の情報網を駆使し、
すぐにでも黒幕の正体を見つけ出してみせますよ！
◇◇◇さん、「ウルダハ・ランディング」に行ってください。コルソンのじっちゃんに頼んで、迎えに来てもらいます。
現地に着く頃には、きっと黒幕の正体も判明しているでしょう！　お気をつけて！
「ウルダハ・ランディング」に行けば、コルソンのじっちゃんが迎えに来てるはずです。
その時に、黒幕の調査結果も報告できるでしょう！

セズル・トトロック ： ヘッェー！　獣人が片っ端から誘拐されてんのかッァ！　そりゃー大事だぜッェ！　がんばれよッォー！
オレも何かあったら、助太刀に駆けつけっからなッァー！

コルソン ： これはこれは、冒険者殿。お早いお着きですな、お待ち申しておりましたよ。
坊っちゃんから一報を受けて、このコルソン爺、老骨に鞭打って馳せ参じましたぞ。
……頼まれていた調査は、つつがなく完了しております。
第六星暦1569年式後期型の生産艇数は4隻。このうち2隻は、ウルダハ政庁に卸され、残る2隻が「ハイウィンド飛空社」へ。
……問題は、我が社に納入された2隻のうち、1隻が不可解な取引で、払い下げられておる点です。
書類上は故障により、廃材として売却となってますが……　ふむ、怪しいですな。
これは、横流しと考えるべきでしょう。
その売却先ですが……「自笑堂（じしょうどう）」。……どうやら、ここウルダハの独立系商会の様子。
業務内容は、主に錬金素材の卸し売り業とか……。
「いつもニコニコ商売繁盛！　自笑堂でございます！　ザル神も思わず笑い出す、驚きの安さ！」
……なんだか、アヤシげな団体ですなぁ。



銅刃団の衛兵 ： ……目標は、エメラルドアベニュー界隈を逃走中の模様です！

銅刃団の衛兵 ： おのれ、蛮族め！　各門を封鎖しろ！　なんとしても、政庁層への侵入を防ぐんだ！　お前は本部に増援を頼んでこい！

銅刃団の衛兵たち ： はッ……！

コルソン ： おや、随分と物々しい様子ですな。どうされましたかな？

銅刃団の衛兵 ： ウルダハ市街地に、危険な蛮族が潜入。破壊活動を行っているとの報告が入りました！
現在、我々銅刃団が厳戒態勢で捕獲に乗り出しています。一般人にも危害を加える可能性があります。
くれぐれも周辺には近付かないよう、お願いします！

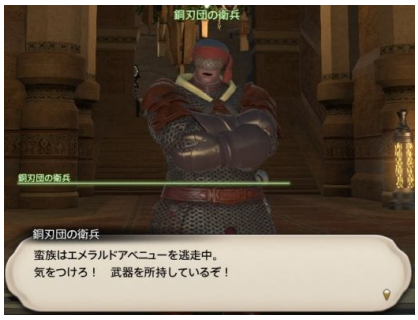


コルソン ： おやおや、街中に蛮族ですか。そりゃ物騒な話ですなぁ……。
冒険者殿、それでは、私はここで。坊っちゃんによろしくお伝えください。
良かったら今度、改良中の新型飛空艇を見せてくだされ。

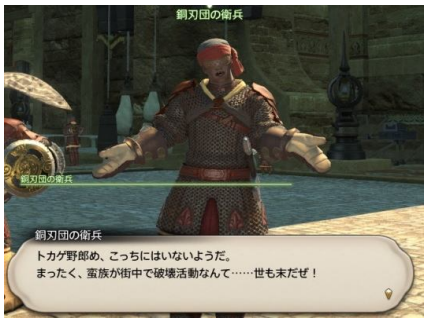
銅刃団の衛兵 ： こっちに蛮族は来てないぜ。来たらふんじばって、手柄を立ててやる！　いつでも来な！

銅刃団の衛兵 ： 蛮族はエメラルドアベニューを逃走中。気をつけろ！　武器を所持しているぞ！









銅刃団の衛兵 ： こちらルビーロード国際市場！　逃走中の蛮族はアマルジャ族と思われる。繰り返す、蛮族はアマルジャ族！

銅刃団の衛兵 ： トカゲ野郎め、こっちにはいないようだ。まったく、蛮族が街中で破壊活動なんて……世も末だぜ！

逃亡中のアマルジャ族 ： ぬぬっ！　おのれ看破されたか！　進退維谷（しんたいいこく）！　止むをえぬ……ここは、一戦交え難局打開せん！
……っと！　ま、まさか貴殿は……冒険者殿ではござらんか！？　おお！　合縁奇縁、天佑神助！

ヤドヴ・ガー ： 憶えておいでか？　それがし「灰の一党」が戦士、ヤドヴ・ガーであり申す！　先だっては、大変世話になり申した！
実はそれがし、我が長ハムジ・ガーより密命を受け、誘拐された若輩のアマルジャ族を探し、
白羽の矢立ちて、此の地ウルダハにまかり来た次第。
されど我らは見てのとおり、ヒトに比べ異形。たちまちにして衆目に晒され、追われる羽目となり申した。
ううむ、我ながら軽挙妄動……。
……なぬ？　破壊活動？　滅相もない！　其は街談巷説、流言飛語！　それがし、無辜の民に傷ひとつつけてはおり申さぬ。
しかし、一難去ってまた一難。果たして此の状況を、如何にして打破し申すか……。暗雲低迷、青息吐息……。



シルビア ： ここにいたのね……！

ヤドヴ・ガー ： ぬ、貴殿は……いったい！？

シルビア ： ……やっと追いついた。大丈夫……もう傷は癒えたわ。
それより、私についてきて！　秘密の抜け道を知っている。警戒中の銅刃団に見つからず、都市外に脱出できる……。

ヤドヴ・ガー ： 即決即断！　憶えなき縁なれど、ここは温情甘んじて受け申す。この恩、戦士ヤドヴ・ガー、深く胸に刻み申した！
冒険者殿、是非とも「灰の陣営」へ赴き、我らが長、ハムジ・ガーと再び邂逅していただきたい。
折り入って、話したき事案があり申す……しからば御免！

ハムジ・ガー ： 強き者、遠方より来る、また楽しからずや。断金之交たる知己朋友よ。よくぞ再び、此の「灰の陣営」を訪ねてくれた。
此度は我が同胞、ヤドヴ・ガーの危機を救ったと聞く。奴をしてウルダハに遣わせたは、我が失策。
真に恥ずべき浅慮の至り、後悔嗤膤（こうかいぜいせい）なり。
強き者よ、かつて貴君の活躍により「炎牙衆」を失脚せし後、此の地ザンラクは、しばしの平静を取り戻した。
されど再び、我ら由々しき憂患の萌芽を察知せん。
なんとザハラク戦陣にヒトが闖入し、八面六臂、鬼神の如き武威にて、なみいる強敵ことごとく蹴散らし、
しかる後、若輩の同胞を虜囚とし、遁走したと言うのだ！
弱きヒトを拐い、神にすがりてテンパードを生み出すザハラクの連中が、逆にヒトに拐われるなど笑止千万！
……されど、同胞は同胞。それが年若き無力なる者ともなれば、護らねばならん！
至強を求むる我らが一党、弱きを挫く非道を許さじ！
強き者よ、再び我らと力を結集し、至強の道に覇を唱えん。敵が悪鬼羅刹の類なりとも、あに遅れをとるべけんや！
光焔万丈、これに当たらん！

